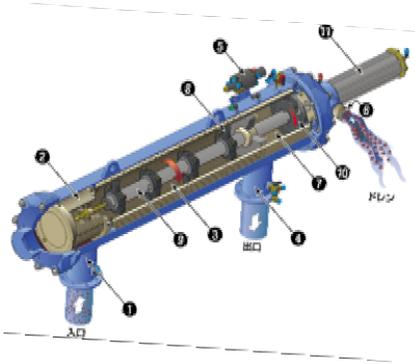
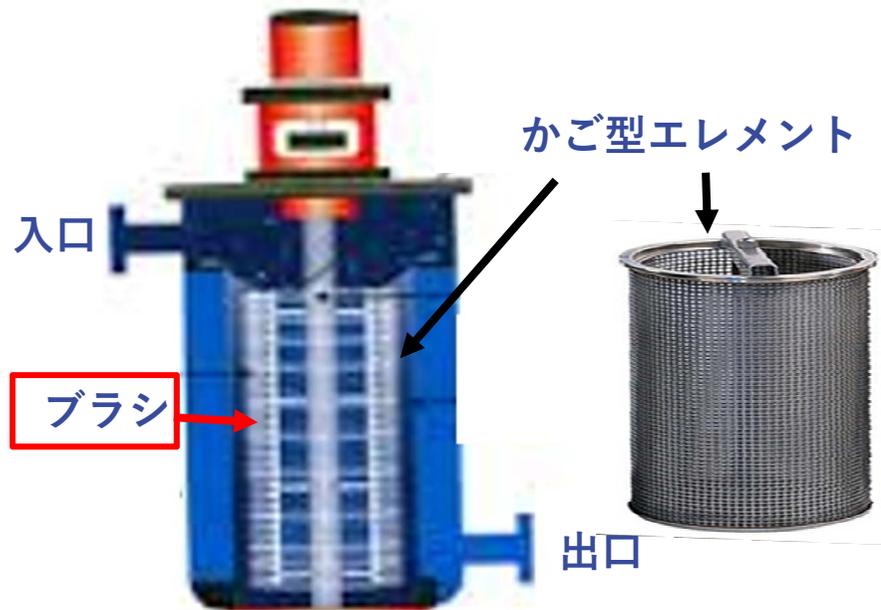


# ボールフィルター型式6.18の特徴/比較 オートストレーナ

名称	ボールフィルタ型式6.18	D社	F社
図			
ろ過面積	キャンドルタイプの為単位体積当たりの濾過面積が大きい ストレーナーがコンパクト	バスケットタイプの為単位体積当たりの濾過面積が小さい。 ストレーナーを大きくせざるを得ない	バスケットタイプの為単位体積当たりの濾過面積が小さい。 ストレーナーを大きくせざるを得ない
ろ過方法	網目で分離(物理ろ過)	網目で分離(物理ろ過)	網目で分離(物理ろ過)
洗浄方法	クロスフロー逆洗 強力な逆洗水流を発生させ、フィルタキャンドル全体を効率的に逆洗	スクレイパー、かき取り式	逆洗用ノズル回転させながら出口と逆洗排出ラインの圧力差を使ってスラッジを吸い込ませる。
備考	コンパクトで、最小10 $\mu$ mまで対応	300 $\mu$ m以下のろ過精度や、繊維上のスラッジ等では逆洗が効かない	スラッジの量が多ければすぐに詰まる

# ストレーナ比較1 D社

## かご型



- かご型エレメントなので単位体積あたりの濾過面積が小さい⇒大型化しやすい
- ブラシの場合、こそぎ落とす際にエレメント表面に付着したゴミを内部に押し込みやすい⇒目詰まりしやすい。300 $\mu$ m以下のろ過精度や藻や繊維状のスラッジには向かない  
運転の継続性、メンテナンス性が悪化しやすい

## ボールフィルタ製



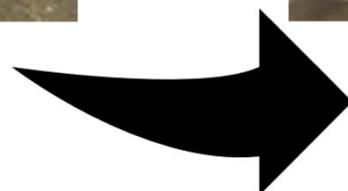
- キャンドルエレメントなので、単位体積あたりの濾過面積が大きい⇒コンパクト
- 逆洗能力の高いクロスフロー逆洗方法を採用
- シンプル構造

# D社製から切り替えて頂いた事例

既存設備



ボールフィルタ



日々のメンテナンス作業からの開放！

# ストレーナ比較1 F社

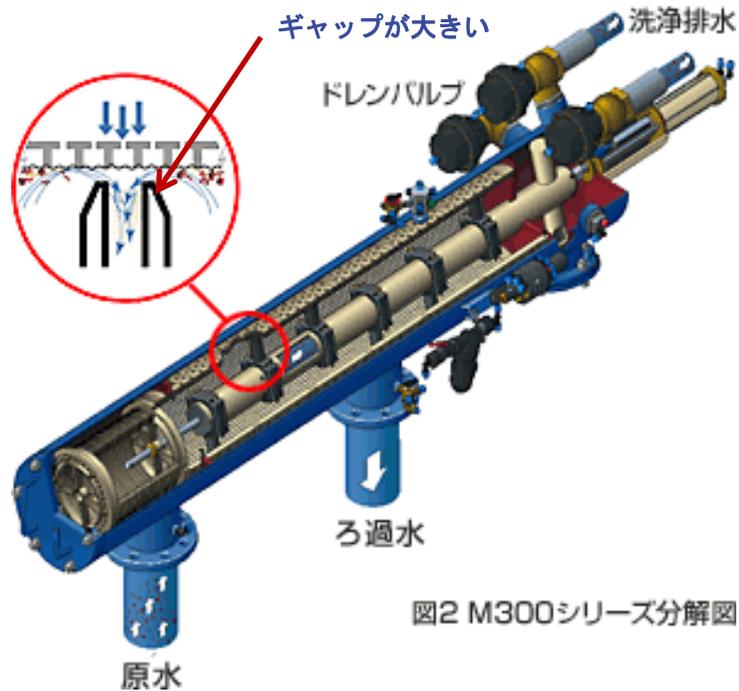


図2 M300シリーズ分解図

- かご型エレメントなので単位体積あたりの濾過面積が小さい⇒大型化しやすい
- 逆洗用ノズルを回転させる為どうしてもエレメントとの間に隙間ができ、吸い込み効果がロスする  
⇒目詰まりしやすい。300 $\mu$ m以下のろ過精度や藻や繊維状のスラッジには向かない

機構が複雑で運転の継続性、メンテナンス性が悪化しやすい

## ボールフィルタ製



- キャンドルエレメントなので、単位体積あたりの濾過面積が大きい⇒コンパクト
- 逆洗能力の高いクロスフロー逆洗方法を採用
- シンプル構造